

橋町の見どころ

まちの歴史シリーズ ⑱

橋町HP <https://tachibana-net.jp> **歴史・史跡** クリック

発行：橋町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和5年12月1日
責任者：國平 安治
事務局：橋公民館 22-3884

今月号の案内者は
小野原区長 山口 義孝さん



クイズ

●みやこは環濠集落かな？

トピック

橋町歴史研究会 前会長の市丸昭太郎さんが、長年の歴史研究と普及活動の功績により武雄市教育委員会表彰を受けられました。

★みやこ遺跡周辺の遺跡群



こだい 古代のみやこ

いせき みやこ遺跡(小野原)

●昨年到现在、みやこの第2弾
昨年は、全体の概要を説明したバッチン、
文字が多かったので今回は地図に落として紹介すね。

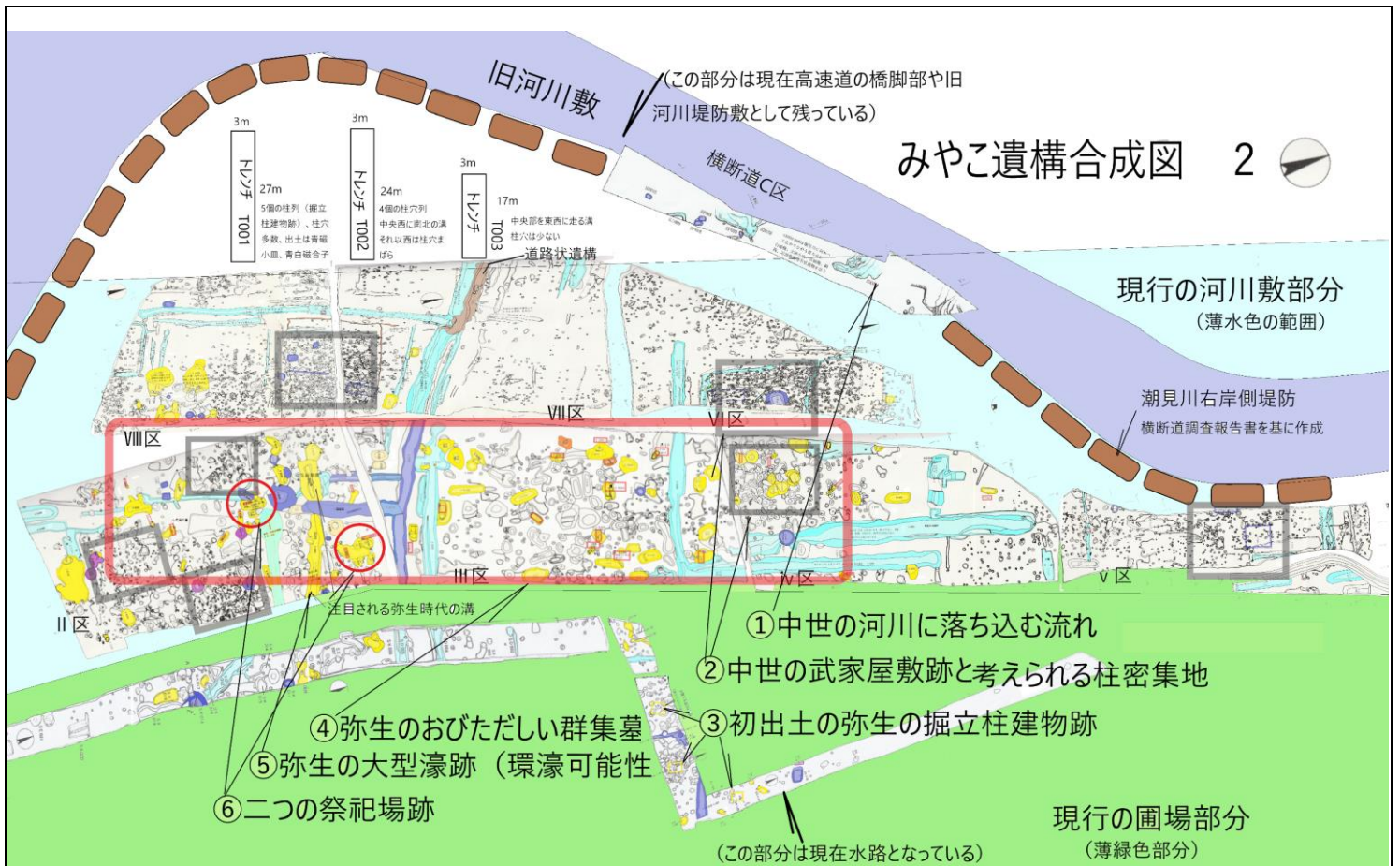
みやこ遺構合成図 1

この図は六角川改修事業、
圃場整備事業、横断道事業
に伴う調査結果を合成したもので
す。下流側分は図2になります。



図の解説

- みやこ遺跡は、郷の木の元山田店の北側になります。現地に看板が立っている所から下流側です。
- 今は、調査場所は堤防や河川敷です。また図の薄緑部分は圃場整備が終わった農地です。
- 図の⑥の所は河童の誓文石のそばです。現地では図の右端側に草場泉さん宅があります
- 図の①～⑦がみやこ遺跡上流側の特徴です。特に弥生の濠や中世の2重濠は重要です。



みやこ遺構合成図 2

●地図の見方

- 上図の右側が潮見川下流になります。
- 図の左側に上流部のみやこ遺跡合成図1（表面参照）が繋がります。
- 図の下側（うす緑色）は圃場整備が終わって、現在は田んぼや畑になっています。

●番号をふった遺跡の説明（赤書きがポイント）

- ①2か所の大きくて先に行くほど広がる落ち込みがあります。遺物から中世のものとされますので、中世に橘氏が高台を削って潮見川を掘った証拠の一つになります。
- ②灰色の四角で囲った部分は柱穴の密集地です。中世の井戸や土壇が含まれ、輸入磁器などが出ますので、中世の武士階級の館跡と考えられます。下流の茂手遺跡では、中世の馬の鞍が出土しました。
- ③圃場（うす緑部分）の水路に弥生時代の掘立柱建物跡が橋では初めて出ました。

- ④赤い楕円で囲んだ部分は、弥生の甕棺や石棺墓がたくさん出た場所です。

このお墓の上に、後に（中世を中心）集落ができたと考えられます。弥生時代の遺構は、この時、たくさんの柱穴で乱されました。弥生時代や古墳時代のものももっとたくさんあったと思われま

- ⑤吉野ヶ里遺跡の環濠の大きさに匹敵する濠が、下流側にも2か所あります。

- ⑥祭祀遺構と思われる2か所の墓は、この群集墓の中でもとても重要なお墓です。

集落を統率する人のお墓と考えられます。透かし彫りが入った土器やミニチュア土器など、祀りに用いられた土器が出ました。



透かし彫土器

★武雄市内の環濠

う・ん・ち・く

クイズの答え部分

みやこ遺跡の濠は環濠状になるのか不明ですが、幅や大きさから防御施設であることは間違いありません。2つの祭祀遺構を分けるように掘られています。東（図では下側）へ広げた調査が必要です。

ちなみに、武雄市内では小楠遺跡は環濠集落です。

（六角川改修、高速道路整備、圃場整備の各種事業に伴う発掘調査報告書からまとめました。）